

令和3年度 第1回 青森市廃棄物減量等推進審議会 会議概要

1 日時

令和3年11月22日（月） 14時00分～15時00分

2 場所

青森市役所駅前庁舎 6階 会議室

3 出席者

【委員】 齊藤委員（会長）、西田委員（副会長）、青山委員、一戸委員、栗嶋委員、竹中委員、三津谷委員（伊藤委員が欠席し、8名中7名参加）※副会長以下、五十音順

【事務局】 環境部 高村部長、奥崎次長

環境政策課 成田課長、廃棄物対策課 佐藤課長

清掃管理課 泉課長、坂本主幹、成田主幹、平井主事、蝦名主事

青森市清掃工場 小関場長、

浪岡振興部

市民課 船水主幹

計 11名

4 案件

ごみの減量化に係る取組について

5 会議要旨

・案件について事務局から説明

（委員）

・「リユース食器マニュアル」について情報提供したい。令和3年度は、このマニュアルを利用したモデル事業を2件実施しており、一つはラインメールの試合、もう一つは弘前で開催された「弘前城菊と紅葉まつり」である。これらの活用例については、今後県のHPで周知を図っていきたい。また、他の団体にも是非このマニュアルを利用してほしいと考えている。

（委員）

・自分は「青森ガス」に所属しているが、ガス事業者は自分のところから出すごみの量を全て報告している。ガス事業者以外の事業者は、どんなに小さい事業者でも自分のところから出るごみの量を把握しているのか。これを数値化する機会があれば意識付けになると思う。

また、事業者の多くは、会議資料等を紙で配付するのではなくデータを配信していて、紙で配付するにしても一部のみになってきている。市も、環境部が音頭を取りそのようにしていくべきではないのか。

近年、事業者による清掃活動が大変盛んになっており、数多くの事業者がごみ拾いを実施していると思うので、そのような事業者のごみ拾いの実績を市民の皆様を紹介する場があれば、やっている事業者の励みになると思う。

また、このようなごみ拾い活動は、ごみを拾った後の分別作業が発生するので、このような活動を小・中・高校生全員に一度やってもらうことが有効だと思う。

命令でやらせるというのではなく催し物的なものとして開催すればよいと思う。

(事務局)

・事業者が実施したボランティア清掃のごみを清掃工場に持ち込んだ場合には、その手数料を免除する制度があり、それについて、今一度PRしていきたいと考えている。

また、これまで実施してきた「市民一掃きデー」の際には、周辺の小中学校に参加の案内を出してきたので、これは今後も継続していきたいと考えている。

(委員)

・事務局から、令和2年度及び令和3年度の合計では、減量目標を上回る減量見込みである旨の説明があったが、単年度で見ると、令和2年度よりも令和3年度の排出量が増えている。

この現状のまま行くと、令和4年度の排出目標を達成するのは難しいと思うのでそこが心配である。

また、家庭系、事業系別では、令和元年度から令和2年度にかけて事業系は減っているが、家庭系は増えているので、この家庭系のごみの排出量を減少させるための事業を考えていかなければならないと考える。

家庭系のごみを減量するためには、市民の分別参加率を高めていくことが重要となるが、そのための方法としては、配付資料の中の事業では、「ごみ出しルール向上推進事業」や「大学等の学生へのごみの減量化・資源化の啓発」が重要だと思う。

コロナの影響もあるかと思うが、可能なら資料送付のみではなく、講習会を開催した方が良いと思う。

また、「ジュニア版ごみハンドブック」については対象が小学4年生なので、その小学4年生に対して出前授業を行っても良いかもしれない。

さらには、青森市清掃工場の見学の際に、希望団体へ減量化・資源化に対する講習会のようなものを提案してみてもどうか。

いずれにしても、ごみの減量化には講習会の開催が有効であると考えているが、講習会開催に当たっては、単に情報を伝達するのではなく、その情報を聞いた人に知識として定着させることが大切である。

そのために、例えば、ジュニア版ごみハンドブックにごみの分別方法を記載し、それを子どもが家庭内で親にクイズを出すなどの知識の定着が図られるのも有効だと思う。

(事務局)

・検討していく。

(委員)

・昨年、今年とコロナ禍ということで、イベントの自粛や外出の自粛等による理由で事業系が減った一方で家庭系が増加し、全体としては減ったという印象を持っている。

コロナが収まった際には、ごみが増えてくるかもしれないという危機感を持ちつつ、各事業を実施していく必要があると思う。

コロナ禍ということで、ホテル等ではハンドドライヤーの使用を自粛しているところが多いが、経団連からは、「ハンドドライヤーの使用による感染リスクは低い」との発表もある。

よって、過剰にハンドドライヤーを自粛した結果、ごみが増えてしまうということも考えられるので、その辺りについても考えていかなければならないのではと思う。

(委員)

・コロナ禍の中でなかなか活動ができない中、市の取組が前進していると評価している。

自分の孫のを見てみると、「子どもの言っていることはその親や祖父、祖母も素直に聞く」ということを感じる。

よって、市の施策も子どもに対して働きかけた方が効果をあげるスピードが速いのではないかと思う。

(委員)

・以前提案した意見を見やすい形に整理して提示していただいてありがたい。

段ボールコンポストのマニュアルも見やすくなった。

近年、青森市内でごみ拾いをする人が増えてきており、大変うれしく思っている一方、街を歩いているとまだまだごみはたくさんあると感じている。

なので、イベントとしてごみ拾いをするだけでなく、気づいた人が気軽にごみ拾いができる仕組みやムードをつくっていくことが重要と考える。

そのための一つの方法として「ボランティアごみ袋」の制度が考えられると思うので、青森市も「ボランティアごみ袋」の制度を導入することも含めて、もっとごみ拾いがしやすい仕組みづくりを進めてもらいたい。